

## ホワイトスペース利用作業班 第3回 議事要旨

### 1 日時

平成 24 年 10 月 12 日(金) 17 時 00 分－18 時 00 分

### 2 場所

中央合同庁舎第2号館(総務省) 8階 第1 特別会議室

### 3 出席者(敬称略)

主査:

森川博之(東京大学)

主査代理:

高田潤一(東京工業大学)

構成員:

阿部健彦(株式会社テレビ朝日)、天野久徳(総務省消防庁、代理:小宮充豊(同庁))、伊藤博(社団法人日本演劇興行協会)、今井亨(日本放送協会)、大原久典(マスプロ電気株式会社)、片柳幸夫(日本テレビ放送網株式会社)、加藤千早(一般財団法人電波技術協会)、栗又康史(森ビル株式会社、代理:久保田常人(同社))、齋藤一(株式会社テレビ東京)、高田仁(一般社団法人日本民間放送連盟)、田中章夫(特定ラジオマイク利用者連盟)、中原俊二(日本放送協会)、野田正樹(株式会社日立製作所)、原田博司(独立行政法人情報通信研究機構)、廣野二郎(株式会社フジテレビジョン)、福永茂(沖電気工業株式会社)、本間康文(株式会社TBSテレビ)、松浦長洋(株式会社バッファロー)、渡邊邦男(日本舞台音響家協会、代理:吉田英明(同会))、渡辺祐介(WICKS 株式会社、代理:加藤万寿夫(同社))

事務局(総務省):

竹内電波政策課長、豊嶋推進官、浅井調整官、鈴木調整官、松元係長(電波政策課)、白石課長補佐(基幹通信課)、作田課長補佐、棚田係長(重要無線室)、星野課長補佐(移動通信課)、安澤課長補佐(地域メディア室)、山野課長補佐(放送技術課)

### 4 配布資料

資料 WS 利-3-1 ホワイトスペース利用作業班(第2回)議事要旨(案)

資料 WS 利-3-2	ホワイトスペース利用システムの運用調整の仕組み 中間とりまとめ(案)に対する意見募集の結果及び意見に対する考え方(案)
資料 WS 利-3-3	ホワイトスペース利用システムの運用調整の仕組み 中間とりまとめ(案)に対する意見募集の結果(概要)
資料 WS 利-3-4	ホワイトスペース利用システムの運用調整の仕組み 中間とりまとめ(案)
資料 WS 利-3-5	今後のスケジュール(案)
参考	米・英におけるTV帯ホワイトスペース活用への取組状況について

## 5 議事概要

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ① ホワイトスペース利用作業班(第2回)議事要旨(案)について

資料 WS 利-3-1について、意見がある場合は10月18日までに事務局まで連絡するよう事務局より説明が行われた。

#### ② ホワイトスペース利用作業班中間とりまとめ(案)に対する意見募集の結果及び意見に対する考え方について

資料 WS 利-3-2、資料 WS 利-3-3(以下「3-2」、「3-3」という。)に基づいて事務局より説明が行われた。

これについて意見交換が行われた。主な発言は以下の通り。

(東京大学 森川主査)

只今ご説明頂いた3-2に記載された考え方(案)が、提出された意見に対する当作業班の考え方として扱われる。気づきの点があればお知らせ頂きたい。

(日本演劇興行協会 伊藤構成員)

3-2の p. 23 に記載されている意見に関連して申し上げたい。この意見は運用調整の簡素化を可能な限り図る必要があり、そのためには各システムの周波数帯をすみ分けることが有効であると提案している。テレビ局や他者からも同様の意見が提出されている。エリア型放送システムは使用チャンネルの変更が困難であるので、ラジオマイク等の他のシステムとの使用チャンネルの重複を回避することが運用調整の簡素化につながると私も考えている。これまで申し上げてきたとおり、ラジオマイクは

高い周波数帯、エリア放送は低い周波数帯から使用していくよう提案したい。

(東京大学 森川主査)

今の発言は3-2を修正する意見ではなく、今後の議論において運用調整方法の確立を図っていく上での参考としての意見、という理解で良いか。

(日本演劇興行協会 伊藤構成員)

良い。

(東京大学 森川主査)

3-4について事務局よりご提案頂いた修正を反映し、3-2はこのままの形で承認するというので良いか。

(構成員一同了承)

それでは、これらを以て中間とりまとめ及び中間とりまとめ(案)に提出された意見に対する当作業班の考え方としたい。

### ③ 今後のスケジュールについて

資料WS利-3-5に基づいて、今後の検討項目の例及び最終とりまとめに向けたスケジュールについて、事務局より説明が行われた。また、今後の作業班における検討項目の例に追加して検討すべき事項や、これら検討項目に対する意見等がある場合は、次回の作業班会合の検討資料の作成の参考とすることから、翌週中メドで事務局に連絡するよう、事務局から構成員に対して依頼があった。

あわせて、今後、本作業班で取りまとめられた3-2、3-4について、報道発表等によって公表する旨が説明された。

(3) 閉会

以上